

平成26年度7月定例記者会見 会見録

日時 平成26年7月31日（木）午後2時30分～3時

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、夏の高校野球についてでございます。昨日、神奈川大会決勝戦が行われ、本市の東海大相模高校が見事優勝を果たしまして、4年ぶり9回目となります。夏の甲子園出場を決定いたしました。本市内の高校が出場することは本当に嬉しいことでございます。今年の東海大相模高校は投打のバランスがとれたすばらしいチームでございます。甲子園での活躍を期待しております。

次に、前回の記者会見でお伝えいたしました、昨日、舛添都知事にお会いしてお話しをさせていただきました。ひとつは、小田急多摩線延伸についてでございます。小田急多摩線の延伸につきましては、都知事が代わられてこれまで直接ご説明をしておらず、お時間をいただいたものでございまして、舛添都知事におかれましては、事業の概要、必要性などにつきましてご理解をいただいたものと感じております。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けまして、本市としてもできる限りの支援をさせていただく旨のお話しもさせていただきました。本市には、1964年東京オリンピックでカヌー競技が行われた相模湖のほか、宮ヶ瀬湖もございます。ご活用いただける施設があるならば、ぜひご利用をいただきたい旨お伝えをさせていただきました。なお、本市には日本陸上競技連盟・第2種公認の競技場や、国体や日本選手権が行われた総合水泳場、体操や卓球の実業団大会が行われた総合体育館など、各種スポーツ施設があり、キャンプ地や練習場を含めまして様々な対応ができると考えております。引き続き、オリンピック、パラリンピックの成功に向けできる限りの支援をしてまいりたいと考えております。

次に、9月1日に開催いたします九都県市合同防災訓練についてでございます。平成26年度は、本市が九都県市の幹事市となりまして、合同防災訓練の中央会場を運営することとなっております。中央会場は相模総合補給廠の一部返還予定地でございます。参加者は地域会場も含め約140団体、約1万人を想定しております。また、九都県市合同防災訓練が在日米軍の施設内で行われるのは初めてのことと伺っております。なお、相模総合補給廠につきましては、首都圏内陸部における基幹的防災拠点として位置付けられるよう、九都県市として国に提案をしている場所でございます。今回の訓練では、自らを助ける「自助」、ともに助け合う「共助」を体験して学べるコーナーのほか、救出・救助訓練や消火訓練、ライフライン復旧訓練、救援物資輸送訓練などを実施いたします。また、九都県市を構成するすべての都県市から消防隊やDMAT（ディーマット）などが防災ヘリコプターなどを使

い、中央会場に一同に集結するとともに、情報共有や対策調整、具体的な指揮につ
きまして、会場で連携して行う訓練などを実施いたします。こちらは、九都県市合
同防災訓練では初めての取り組みになります。この訓練によりまして、市民の皆様
をはじめ、首都圏の皆様の防災、減災への意識を高めていただくとともに、参加部
隊の技能向上や九都県市の自治体の連携体制の強化を図りたいと考えております。

次に、これから行われる本市の夏祭りや花火大会についてでございます。今週末
の8月2日、3日には、阿波踊りで有名な東林間サマーわぁ！ニバルが行われます。
また、ユニークな竹飾りが飾られる橋本七夕まつりは、8月8日から10日までの
3日間開催されます。花火大会につきましては、さがみ湖湖上祭花火大会が8月1
日、相模原納涼花火大会が8月23日に開催されます。ご都合がございましたらぜひ
取材をお願いいたします。

最後になりますが、4月の記者会見で発表いたしました市のマスコットキャラク
ター・さがみんの着ぐるみが完成しましたので、お披露目をしたいと思えます。（さ
がみんが登場）このさがみんでございますが、8月8日から行われます橋本七夕ま
つりで市民の皆様にご披露したいと思えます。市民の皆様にあされるキャラクター
になりますよう、今後、様々なイベントで活躍してもらいたいと考えております。
私からは以上でございます。

（記者）

昨日の都知事との会談で、小田急多摩線の延伸と、オリンピックの競技会場やキ
ャンプ地の誘致についてお話をされたと思えますが、都知事から具体的にどのような
お話しがありましたか。

（市長）

オリンピック、パラリンピックの競技会場の見直しなどについて、様々な検討や
調整が行われていることもありましたので、私からは、相模湖で行われた前回の東
京オリンピックのカヌー競技の実施概要や、艇庫や審判棟の現在の状況などについ
て、写真を見ていただきながらお話をさせていただきました。相模湖は、前回のオ
リンピックの実績もありますし、少し手を加えればすばらしい会場になると思いま
すが、現在の競技に必要なコースの基準のこともありますので、オリンピック、パ
ラリンピックに参加される各国選手のご要望なども踏まえ、競技会場ではなく、練
習会場やキャンプ地としての活用とともに、本市としてもできる限りの協力をさ
せていただく旨、お話しをさせていただきました。都知事からはオリンピックの成
功に向け、連携を強化し、一緒に取り組んでいきたいというお話がありました。

（記者）

都知事からは前向きなお話しはありましたか。

（市長）

競技会場、あるいは合宿地や練習会場については、今後、事務局同士で調整をさ

せようというお話でしたので、可能性がまったくないといった感触は伝わってきませんでした。これから練習会場等の利用の申し出を含め、情報交換を密にしようというお話をさせていただいたところです。

(記者)

小田急多摩線延伸について、都知事はどのように話されておりましたか。

(市長)

小田急多摩線の延伸を計画しているエリアにつきましては、東京都と隣接していることや、都心からのアクセス性など、大変重要なエリアだと考えております。このようなこともあり、政令指定都市に移行する前から都知事に対して、必要性や事業内容などについて説明をさせていただいております。ここで舛添知事が就任されたことや、来年度の交通政策審議会の答申で「整備を推進すべき路線」という位置付けを得なければならない重要な時期でもございますので、直接、お会いする機会をいただき、説明をさせていただいたところでございます。なお、隣接する町田市とは先般、小田急多摩線延伸の推進について覚書を取り交わさせていただき、両市で事業実現のため積極的に取り組んでいくこととしております。また、これまでの事務的な検討の中では、東京都や神奈川県などの関係者も加わり、その可能性について検討をしてきた経緯もございます。このようなことを舛添知事にお話しさせていただきましたが、舛添知事におかれましては、小田急多摩線の状況のほか、圏央道の開通、相模総合補給廠など、本市を含むこの地域のことをよくご理解いただいております。小田急多摩線につきましては重要路線というご認識をお持ちだと思いますが、東京都には小田急多摩線のほか様々な鉄道の整備路線がございますので、小田急多摩線の重要性、必要性を勘案しながら、周辺都市と連携し、慎重に、かつ、連絡を密にしながら取り組んでいこうというお話をいただきました。

(記者)

先日のオスプレイの飛来について、市長はどのように考えますか。また、市民の中には、九都県市合同防災訓練にオスプレイが飛来するのではないかと不安を持っている方もいます。オスプレイが訓練会場に飛来する可能性はあるのか、飛来した場合の市の対応について伺います。

(市長)

オスプレイにつきましては、市民の多くが不安に思っているとともに、県及び本市を含めた関係市から具体的な説明を求めているにも関わらず、米軍や国から十分な説明がないまま2度の飛来があったことは大変遺憾に思います。引き続き国に対しまして、説明を求めていかなければいけないと考えております。十分な説明をいただき、市民の不安を払しょくできるよう取り組んでまいりたいと考えております。

また、九都県市合同防災訓練にオスプレイが飛来する可能性は、物理的な問題からもないと考えております。

(記者)

仮に九都県市合同防災訓練にオスプレイをしようすると打診があった場合、相模原市として拒否するお考えはありますか。

(市長)

この合同防災訓練につきましては、九都県市や内閣府などの国の機関などと十分調整を行っており、飛来するヘリコプター数やルート、訓練内容など、詳細な部分まで調整しております。その中でも、オスプレイが飛来するという話はまったくありませんし、訓練に必要な機能ではありませんのでありえないと思います。

(記者)

市長の意見としては、オスプレイを受け入れないということによろしいですか。

(市長)

物理的に無理だと考えています。

(危機管理局長)

今回の合同防災訓練で、航空機を使った訓練につきましては、自衛隊等様々な関係機関にお願いをしていることもあり、10機以上航空機が飛来する予定です。米軍につきましては、在日米陸軍・キャンプ座間に参加を依頼していますが、キャンプ座間が所有しているヘリコプターは、ブラックホーク(UH60)と把握しておりまして、今、市長が申し上げましたとおり、それ以外のヘリコプターが飛来する可能性はないと考えております。

(記者)

仮にオスプレイによる訓練参加の打診が米軍等からあった場合でも、考えられないということでしょうか。

(市長)

打診そのものの可能性がありえませんがそのようなことはないと思います。

(記者)

九都県市合同防災訓練を実施するのは、相模総合補給廠一部返還予定地の17ヘクタールでしょうか。

(市長)

17ヘクタールの一部と共同使用区域の一部を利用します。

(記者)

今回の九都県市合同防災訓練の中央会場は、どのような規模で行われますか。

(危機管理局長)

会場面積では、これまでで最大規模です。現時点で想定している参加人数約1万

人も過去最大規模です。

(記者)

都知事との面会についてですが、相模湖が選手村から50km以上離れていることについて都知事から何か話がありましたか。

(市長)

相模湖を会場として提案する場合、選手村から相模湖まで移動時間を想定しますと、中央自動車道などを利用して約1時間かかります。しかし、オリンピックですし、高速道路や一般道で五輪専用レーンや五輪優先ルートを有効活用すれば、その時間が概算で30分から50分程度になり、都内の移動とほとんど変わらない時間で移動できるというお話もさせていただきました。

(記者)

都知事と直接お話をされて、市長はどのような感触がありましたか。

(市長)

競技会場などの課題については、日々刻々と情報が変わっております。環境や事業費の問題など様々なお話があります。相模湖について、カヌー競技に限ったことであれば、条件やカヌー協会の理解を得るなどの調整の中で、競技会場として利用することについてはかなり厳しい状況だと思えます。練習会場やキャンプ地など様々な利用方法がありますので、市といたしましても、オリンピックが成功するために、様々な面で支援させていただきたいと考えております。オリンピックは競技会場がすべてではありませんので、練習会場、キャンプ地ということであれば、相模原市は東京から至近距離にあり、都内の選手村から短時間で来ることも可能です。また、キャンプ地ということであれば、本市の施設や自然を生かして、練習に専念できるような環境をつくることができると思えます。オリンピックが成功するよう事務方同士で調整をするよう確認をしたところでございます。

(記者)

外国の選手の練習会場として誘致をしたらいかがでしょうか。

(市長)

オリンピック開催前に少し早めに来日して練習をしたい、日本の気候に体を慣れさせたいなど、様々な要望が各国からオリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会へあると思えます。それらの条件に添うものがあれば、できる限り速やかに合宿所や練習会場を提供したいと考えております。相模原市はカヌー競技、ボート競技ができる相模湖だけではなく、総合体育館もありますし、国体を開催した総合水泳場もあります。様々な競技を受け入れる環境がありますので、そのようなことを都知事にお話いたしました。

(記者)

オリンピック成功に向けた支援ですが、その具体的な内容について伺います。施設の改修、周辺のインフラ整備、ボランティアスタッフの募集等、予算が必要なものもありますがそれらはいかがですか。

(市長)

藤沢市が江ノ島でのヨット競技を開催をしたいと発表され、神奈川県知事もそれを支援したいとお話されていきました。施設設備など必要な経費について、神奈川県も支援していきたいという力強いお話もありますので、相模原市としましても、市民の皆様のご理解をいただきながら、スポーツの振興、教育環境の向上、また、シティセールスなどオリンピック成功に向けて、積極的に取り組みたいと思います。

以 上